

2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)



2023年2月14日

上場会社名 株式会社多摩川ホールディングス 上場取引所 東
 コード番号 6838 URL https://www.tmex.co.jp
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 榊沢 徹
 問合せ先責任者(役職名) 財務経理部長 (氏名) 増田 康寿 (TEL) 03-6435-6933
 四半期報告書提出予定日 2023年2月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	1,908	△54.0	△477	—	△484	—	△460	—
2022年3月期第3四半期	4,151	25.3	231	57.3	196	113.6	139	100.8

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 △463百万円(—%) 2022年3月期第3四半期 157百万円(141.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	△77.19	—
2022年3月期第3四半期	24.24	23.29

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	8,216	5,037	61.2
2022年3月期	8,359	5,442	65.0

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 5,026百万円 2022年3月期 5,432百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	7.00	7.00
2023年3月期	—	0.00	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	5.00 ~30.00	5.00 ~30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,896 ~3,236	△53.6 ~△48.1	△550 ~△490	—	△605 ~△546	—	△580 ~△521	—	△97.5 ~△87.5

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

詳細につきましては、本日公表の「2023年3月期通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

詳細は、添付資料P. 9「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期3Q	6,073,900株	2022年3月期	5,927,900株
② 期末自己株式数	2023年3月期3Q	61,484株	2022年3月期	61,484株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期3Q	5,960,917株	2022年3月期3Q	5,764,314株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定および業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料4ページ「連結業績予想などの将来予想情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本等関係)	9
(会計方針の変更)	9
(追加情報)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	10
(収益認識関係)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

文中における将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染拡大の中、経済活動の制限が緩和されましたが、米中問題の動向及びその先行き、政策に関する不確実性、世界的な半導体不足、原油高などが世界経済に与える影響、また本年に入りロシア/ウクライナ情勢の悪化や石油、電気、ガスを含む諸物価の値上がりが増加し、より一層の混迷、先行き不透明な状況で推移しております。

このような経営環境のもと、電子・通信用機器事業につきましては、5G関連市場や官公庁・公共関連市場を中心とした拡販営業に加え、新型コロナウイルス感染症による非接触型営業(インサイドセールス)として、新規顧客の引合い増加を目的としたホームページの刷新・拡充など、時代の変化に合わせた取組みにより、新規市場や顧客開拓にも力を入れ新たな領域の受注獲得を行ってまいりました。

また、継続的に「製品の高付加価値化への取組み」、「事業領域の拡大・開拓」、「業務提携先との共同開発」を推進しながら、自社開発品の提案強化を図ってまいりました。

結果、従来のアナログ高周波製品以外に各種業務用無線で使用される光関連製品をはじめ、高速信号処理に不可欠なデジタル信号処理装置、大容量データの無線伝送に必要なミリ波帯、テラヘルツ帯域製品等、新規開拓顧客と新しい市場からの引き合いも増加しており、『Beyond 5G/6Gの産学協同研究』など、積極的な取組みを行っております。

移動体通信分野におきましては、通信事業者各社のインフラ投資が抑制された影響により、既存製品の需要が減少傾向にあるため、投資を抑えてインフラを拡大する手段としてインフラシェアリングの需要が増加することを見込み、当社はインフラシェアリング関連機器の販売拡大を目指し取り組んでまいります。

海外向け移動体通信設備関連につきましては、新型コロナウイルス感染症の様々な規制は徐々に解除され、遠隔や対面での新規顧客への提案活動を再開しております。

公共分野におきましては、業務用無線や、災害対策、監視システム向けとしての光伝送装置、デジタル信号処理装置等の需要が増加してきており、更なる販売拡大を図ってまいります。また、『国土強靱化対策』としての国家プロジェクトへの開発段階からの参画により、長期的、安定的な受注の確保に取り組んでまいります。

その他にも、ドローンビジネス市場に向けた監視ユニットには自社開発技術の投入や、民間衛星ビジネスへの参入など、積極的な事業領域の拡大を推進していくとともに自社開発品の提案強化により、電子・通信用機器事業全体としての安定した事業基盤を確立するべく、引き続き当社グループの収益拡大に向けた活動を継続してまいります。

再生可能エネルギー事業においては、前期までの発電所の売却資金や銀行による協調融資、サステナブル融資等の資金を活用しながら小形風力発電所の開発に取り組んでまいりました。当第3四半期連結累計期間は、北海道及び秋田県において、新たに28基の小形風力発電所が連系いたしました。また、サステナブル融資等により、北海道の風況の良い地域において小形風力発電所を新たに14基開発することといたしました。さらに、シンジケートローン方式でのグリーンローンにより、新たに小形風力発電所を30基開発することといたしました。今回のグリーンローンは小形風力発電所開発に用途を限定した融資であり、その資金用途や融資後の実績についてレポートを行うなど、透明性が確保されたものとなっています。また、本件についてはグリーンローンとしての適合性について、R&I(株式会社格付投資情報センター)よりセカンドオピニオンを取得いたしました。

当社を取り巻くステークホルダーの皆様へ精緻な収益構造、成長性を担保してもらうべく、最短でのIFRS(国際財務報告基準)導入を見据え、当期より小形風力発電所の保有を中心とした国内企業では唯一無二の再生可能エネルギー事業におけるビジネスモデル構築を目指し、同事業の組織をはじめとする各種機構、構造改革に着手いたします。同時に1基毎が小規模な小形風力発電所の開発によって、リスク分散や収益性・機動性を確保することで事業リスクの低減を図り、新たな再エネ電源の開発を加速することで、継続的な温室効果ガスの削減に貢献してまいります。

また、来期以降の施策といたしまして北海道根室市の大型風力発電所(1.984MW)等の中型及び大型プロジェクトへの参画やインドネシア東ヌサ・トゥンガラ州フローレス島の小水力発電所プロジェクトへの参画など、未来へ向けた電源の多様化にも着手してまいります。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における受注高は、3,456百万円（前年同期比25.5%減）、売上高は、1,908百万円（前年同期比54.0%減）となりました。損益面については、営業損失477百万円（前年同期は営業利益231百万円）、急速な円安の影響で為替差益38百万円を計上したことにより経常損失484百万円（前年同期は経常利益196百万円）、固定資産売却益45百万円を特別利益として計上したことにより親会社株主に帰属する四半期純損失は460百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益139百万円）となりました。

電子・通信用機器事業につきましては、需要も安定的に増加し続けており、今後も堅調に推移していくことが予測されますので、既存市場での販売拡大活動を継続して推進してまいります。また、新たな市場への参入など、積極的な事業領域の拡大を推進してまいります。新市場での受注も獲得し始めており、電子・通信用機器事業全体としての安定した事業基盤を確立するべく、引き続き当社グループの収益拡大に向けた活動を継続してまいります。一方で、世界的な電子部品調達難の影響は避けられず、期初予定していた売上が延伸するなど、業績の下押し要因となっております。引き続き部材調達難解消の施策に注力してまいります。

当社グループは、再生可能エネルギー事業に加え環境事業全般について国内にとどまらず、東南アジアを中心とした海外での展開を積極的に検討しており、同事業の業容拡大を図るべく、投資活動を積極的に行ってまいります。当社グループは従来以上にCO2削減、地球温暖化への対策にグループ全従業員と共に取り組み、当社を取巻くステークホルダーの皆様にESG経営への積極的な情報開示及びSDGs目標達成に向けた積極的な挑戦をしております。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

a. 電子・通信用機器事業

電子・通信用機器事業については、直近の電子部品等の調達難の対策を講じるも影響は避けられず、一部部品の納期遅れによる売上の期ずれなどにより、売上高及びセグメント利益は期初計画には届かず、受注高は3,254百万円（前年同期比4.6%増）、売上高は1,706百万円（前年同期比32.3%減）となり、セグメント損失は70百万円（前年同期はセグメント利益368百万円）となりました。

b. 再生可能エネルギー事業

当第3四半期連結累計期間において保有している北海道の小形風力発電所や低圧太陽光発電所は、順調に売電しております。しかし、売上高及びセグメント利益は、低圧太陽光発電所を売却したものの前期(2021年6月)に北海道登別市太陽光発電所を売却した反動から減少となりました。

以上の結果、受注高は、202百万円（前年同期比86.8%減）、売上高は202百万円（前年同期比87.6%減）、セグメント損失は78百万円（前年同期はセグメント利益158百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 財政状態の分析

(総資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ143百万円減少し、8,216百万円となりました。これは主に、棚卸資産や投資有価証券が増加したものの、受取手形、売掛金及び契約資産が減少したためなどです。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べ261百万円増加し、3,178百万円となりました。

これは主に、長期借入金が増加したものの、未払法人税等及び流動負債のその他に含まれる未払消費税や支払手形及び買掛金が減少したためなどです。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産の部は、前連結会計年度末に比べ404百万円減少し、5,037百万円となりました。

これは主に、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上によるものです。

② 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において新たに発生した事業上及び財務上の対処すべき課題について、重要な事項はありません。

③ 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、181百万円です。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期の通期業績予想につきましては、見直しを行った結果、売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益を前回予想値より下方修正しております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,060,604	890,619
受取手形、売掛金及び契約資産	2,205,186	1,026,448
商品及び製品	781,903	1,774,015
仕掛品	1,077,617	1,455,915
原材料及び貯蔵品	482,925	747,386
前渡金	57,205	72,266
その他	172,694	368,551
貸倒引当金	△27,692	△28,538
流動資産合計	6,810,444	6,306,665
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	527,933	552,456
減価償却累計額	△379,316	△395,017
建物及び構築物（純額）	148,617	157,438
機械装置及び運搬具	386,774	386,774
減価償却累計額	△189,356	△201,736
機械装置及び運搬具（純額）	197,417	185,038
工具、器具及び備品	936,939	1,085,351
減価償却累計額	△766,358	△834,441
工具、器具及び備品（純額）	170,580	250,910
土地	315,686	315,686
建設仮勘定	0	11,763
有形固定資産合計	832,302	920,837
無形固定資産		
営業権	5,539	5,333
ソフトウェア	57,316	56,258
その他	0	0
無形固定資産合計	62,856	61,592
投資その他の資産		
投資有価証券	186,910	381,977
長期貸付金	187,457	203,867
繰延税金資産	108,460	109,852
その他	139,124	215,478
投資その他の資産合計	621,953	911,177
固定資産合計	1,517,112	1,893,606
繰延資産		
株式交付費	29,985	15,194
開発費	12	—
開業費	1,843	878
繰延資産合計	31,841	16,073
資産合計	8,359,398	8,216,345

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	700,884	587,065
短期借入金	146,655	119,421
1年内返済予定の長期借入金	267,873	246,694
リース債務	4,965	4,802
未払金	211,349	128,164
未払法人税等	67,927	7,827
契約負債	42,782	25,016
前受金	36,709	19,732
賞与引当金	100,980	29,113
製品保証引当金	55,986	47,496
その他	150,038	54,090
流動負債合計	1,786,153	1,269,426
固定負債		
社債	100,000	100,000
長期借入金	584,527	1,365,741
リース債務	14,302	10,126
退職給付に係る負債	255,023	267,849
資産除去債務	15,243	13,083
その他	161,634	152,531
固定負債合計	1,130,731	1,909,331
負債合計	2,916,884	3,178,757
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,485,241	2,535,100
資本剰余金	1,683,419	1,692,213
利益剰余金	1,273,405	813,230
自己株式	△61,373	△61,373
株主資本合計	5,380,693	4,979,171
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	15,354	△28,332
為替換算調整勘定	36,285	76,011
その他の包括利益累計額合計	51,639	47,679
新株予約権	10,180	10,180
非支配株主持分	—	555
純資産合計	5,442,513	5,037,587
負債純資産合計	8,359,398	8,216,345

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)
売上高	4,151,290	1,908,466
売上原価	2,998,409	1,375,362
売上総利益	1,152,881	533,103
販売費及び一般管理費	921,259	1,010,216
営業利益又は営業損失(△)	231,621	△477,112
営業外収益		
受取利息	2,437	4,308
受取配当金	305	347
受取保険金	8,767	4,440
為替差益	—	38,252
その他	10,029	8,028
営業外収益合計	21,539	55,378
営業外費用		
支払利息	20,018	18,065
為替差損	5,667	—
持分法による投資損失	2,584	3,080
株式交付費償却	16,408	15,615
営業外支払手数料	—	18,900
その他	11,951	7,464
営業外費用合計	56,631	63,125
経常利益又は経常損失(△)	196,529	△484,859
特別利益		
固定資産売却益	—	45,000
特別利益合計	—	45,000
特別損失		
事務所移転費用	—	8,193
特別損失合計	—	8,193
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	196,529	△448,052
法人税、住民税及び事業税	20,164	8,184
法人税等調整額	36,596	3,381
法人税等合計	56,760	11,566
四半期純利益又は四半期純損失(△)	139,768	△459,618
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	555
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	139,768	△460,174

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	139,768	△459,618
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,566	△43,687
為替換算調整勘定	15,896	39,726
その他の包括利益合計	17,463	△3,960
四半期包括利益	157,231	△463,579
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	157,231	△464,135
非支配株主に係る四半期包括利益	—	555

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本等関係)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 配当に関する事項

配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2021年5月13日 取締役会	普通株式	資本剰余金	40,029	7.00	2021年3月31日	2021年6月28日

II 当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 配当に関する事項

配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2022年5月12日 取締役会	普通株式	資本剰余金	41,064	7.00	2022年3月31日	2022年6月27日

(会計方針の変更)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。これによる当第3四半期連結累計期間に与える影響はありません。

(追加情報)

(グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱いの適用)

当社及び一部の国内連結子会社は、第1四半期連結会計期間から、連結納税制度からグループ通算制度へ移行しております。これに伴い、法人税及び地方法人税並びに税効果会計の会計処理及び開示については、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」(実務対応報告第42号 2021年8月12日。以下「実務対応報告第42号」という。)に従っております。また、実務対応報告第42号第32項(1)に基づき、実務対応報告第42号の適用に伴う会計方針の変更による影響はないものとみなしております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	電子・通信 用機器事業	再生可能エネ ルギー事業	計		
売上高					
モバイル通信インフラ	905,866	—	905,866	—	905,866
官公庁	598,900	—	598,900	—	598,900
公共プロジェクト	550,376	—	550,376	—	550,376
FA・計測・その他	464,741	—	464,741	—	464,741
太陽光発電所	—	1,114,398	1,114,398	—	1,114,398
風力発電所	—	510,572	510,572	—	510,572
顧客との契約から生じる収益	2,519,884	1,624,970	4,144,854	—	4,144,854
その他の収益	—	6,435	6,435	—	6,435
外部顧客への売上高	2,519,884	1,631,406	4,151,290	—	4,151,290
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	2,519,884	1,631,406	4,151,290	—	4,151,290
セグメント利益	368,912	158,096	527,008	△295,387	231,621

(注) 1. セグメント利益の調整額△295,387千円は、事業セグメントに配分していないグループ管理部門の費用△295,387千円であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	電子・通信用 機器事業	再生可能エネ ルギー事業	計		
売上高					
モバイル通信インフラ	601,124	—	601,124	—	601,124
官公庁	345,829	—	345,829	—	345,829
公共プロジェクト	426,698	—	426,698	—	426,698
FA・計測・その他	332,540	—	332,540	—	332,540
太陽光発電所	—	145,710	145,710	—	145,710
風力発電所	—	48,306	48,306	—	48,306
顧客との契約から生じる収益	1,706,192	194,016	1,900,209	—	1,900,209
その他の収益	—	8,256	8,256	—	8,256
外部顧客への売上高	1,706,192	202,273	1,908,466	—	1,908,466
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,706,192	202,273	1,908,466	—	1,908,466
セグメント損失(△)	△70,023	△78,742	△148,765	△328,346	△477,112

(注) 1. セグメント損失(△)の調整額△328,346千円は、事業セグメントに配分していないグループ管理部門の費用△328,346千円であります。

2. セグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおりであります。